

清水家

江戸時代（1603—1867）、足輕（歩兵）は、「長屋」に住むのが一般的でした。彼らは小さな居住空間に耐えて生活せざるを得ませんでした。このような一般的状況と対比した場合、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）の足輕には庭園付の一戸建ての家が与えられ、相対的に快適な生活を送っていました。

清水家は、隣接する高西家と同様、金沢に残る最古の「足輕」屋敷の一つです。この家は 1990 年に現在の場所に移設され、金沢市足輕資料館の一角を占めることとなりました。この家がここに移動される直前まで、家には元の足輕の子孫が住んでいました。この家のもともとの所在地は、代々、飛脚の仕事をしていた足輕たちの居住区にありました。飛脚とは、そのスピードと独特の走行スタイルで知られる宅配輸送者たちのことです。

清水家は当時の足輕屋敷のすばらしい見本です。訪問者は、これらの家屋内を歩き回り、当時の足輕の毎日の生活ぶりを体験することができます。内部空間は、玄関と玄関の間、座敷からなる接客空間と、流し、茶の間と寝室、納戸、鍵の間からなる生活空間に分けられています。

隣接する高西家には、足輕の住居や生活に関する詳細情報が展示されています。